

(第11号様式)

事業実施報告書

1. 事業の名称

カンボジア・スタディ・ツアー2012

2. 実施時期及び実施期間

平成24年12月2日(日)～平成24年12月8日(土) (7日間)

3. 実施場所

カンボジア王国

4. 実施主体

ひろしま・カンボジア協会

5. 事業の目的

- カンボジアを訪問し、その文化・歴史に触れることにより、より深くカンボジアを理解し今後の活動に生かす。
- 前回訪問したオー村とオー村小学校との交流を通して、継続した支援活動が出来るようにする。
- 広島から反戦・平和のメッセージを届け、復興を目指しているカンボジアの人達と思いを共有する。

6. 実施内容（箇条書き）

- ①カンボジアの史跡を巡り、その文化に触れる。
- ②ポル・ポトの圧政・虐殺の痕を訪ね、カンボジア人の苦しみや悲しみを知る。
- ③オー村を訪ね、村人の生活を体験したり、オー村小学校で子供たちと交流したりすることを通じて今後の支援活動に繋げていく。

7. 参加人数又は派遣人数（国外に派遣した場合、広島市民の人数も）

15人（うち 広島市民14人）

8. 実施効果（箇条書き）

- ①カンボジアの歴史遺産に触れ、ポル・ポト時代の圧政・内戦を生き抜いてきたカンボジアの人と直接、接することでカンボジアの実情をより理解することが出来た。
- ②前回の訪問で、オー村の人やオー村小学校の子供たちの様子がある程度把握できていたので、内容をしっかり考えた濃い交流が出来、さらに今後の支援の在り方を考えることができた。

(第13号様式)

事業実施内容及び所感文

事業名：カンボジア・スタディ・ツアー2012

団体名：ひろしま・カンボジア協会

実施時期及び実施期間：平成24年12月2日(日)～平成24年12月8日(土) (8日間)

実施内容：

日 程	場 所	交流・協力活動名	内 容
平成24年 12月3日(月)	JHP・学校をつくる会 (NPO法人) ツールスレーン虐殺博 物館	視察・意見交換会 視察・意見交流会	・カンボジアの情操教育の実情を知 る。 ・元収容者チュム・メイ氏に体験談を 聞き、意見交流をする。
12月4日(火)	キリングフィールド	視察	・ポル・ポト時代の虐殺現場痕や資料 館の見学をする。
12月5日(水)	オー村	昼食交流会 ホームビジット	・昼食を一緒に作り、食文化を通して 交流をする。 ・グループに分かれ、各家庭を訪問 し、交流を図る。
12月6日(木)	オー村小学校 ペアスピア小学校	交流会	・4つのグループに分かれて交流内 容を考え、子供たちと交流する。 (理科実験、型染め、折り紙、平和) ・学用品などのプレゼントを渡す。
12月7日(金)	アンコール遺跡	見学・視察	・カンボジアの世界遺産を見学し、そ の歴史をたどる。
所 感	<p>カンボジアの実態を1人でも多くの人に知ってもらいたいと思い、会員以外の人にも呼びかけてツアーを組んだ。プノンペンとシェムリアップ間の移動は道路が悪く長時間でかなり厳しかったが、二つの市を訪問することで、ポル・ポトの残酷な歴史痕は今なおカンボジアの隅々にまで大きな影響を残し、多くの支援を必要としていることを実感した。オー村は昨年につき二回目の訪問で懐かしい顔もたくさん見られ、通訳の人を3人頼んだので、村の人の生活の様子も良く分かった。オー村小学校では交流内容を十分検討して行ったので子供達も興味を持って取り組み、次回も楽しい体験が出来るものを準備して持てきたいという感想を持った。また図書の本が足りないこと、パソコンがほしいという校長からの要望も聞くことができ、今後の支援の在り方について考えることができた。</p>		

	<p>今後は、このツアーで見聞し、体験してきたことを出来るだけの機会をとらえて多くの人に伝え、支援の輪を広げていきたいと思っている。</p> <p>前回は同様であるが、今回の活動の様子のビデオをユーチューブで全世界に公開し、ケーブルTVで広島市民に放送する予定である。</p>
--	--

その後の活動

1. 「カンボジア・スタディツアー2012」の報告

- ① 訪問先概要・日程・感想文の「カンボジア訪問記」作成
- ② 写真集「私の愛したカンボジア」作成
- ③ 報告集会 (2013. 3. 31) 開催
- ④ 「カンボジア料理教室」(2013. 10. 12)・「国際交流・協力の日」(2013. 11. 17)等にビデオで紹介

2. 補助金交付事業公開報告会

- 資料 事業実施報告書 (第11号様式)
事業実施内容及び所感文 (第13号様式に追加)
添付写真 (第14号様式)
- ビデオ で報告します。

(第14号様式)

添付写真

事業名：カンボジア・スタディ・ツアー2012

団体名：ひろしま・カンボジア協会

1. オー村でのホームビジット



説明：3グループに分かれて訪問をした。ドアも鍵もない家の中は、財産らしいものは無いように見えたが、何にも変えがたい自由で、ゆったりとした生活があった。

2. オー村小学校での理科の授業



説明：小学校ではアルミ缶と塩水と木炭で電池を作りランプを付けたり、モーターを回したりした。通常は本だけの授業なので、先生も生徒も驚きの連続だったようだ。